

埼玉大学文化科学研究科修士課程学位論文・特定課題研究成果要旨

研究専攻（専門領域）		文化環境研究専攻(文化人類学)		学籍番号	05CS013
氏名	近藤 洋	ローマ字	KONDO Hiroshi	国籍 (留学生)	
修士学位 論文名 特定課題研究名	カスマ河谷から見た中央アンデス形成期のプロセス				
提出年月日	2008年1月10日	指導教員	井口 欣也		
体裁 (論文)	54頁(1頁文字数1400字)	言語	日本語		
別冊添付資料等	図版・表 36頁				
キーワード	アンデス、編年、較正年代、形成期、祭祀建築				
<p>本論文において筆者は中央アンデス形成期カスマ河谷の神殿建築を対象とし、地域編年を提案した。その時ツールとして使用したのが較正年代である。較正年代とは、炭素14年代を軸にして作成した暦年較正曲線を用いて較正された年代である。</p> <p>較正にはインターネット公開プログラム OxCal(バージョン4.0.5)を用いた。最新の2005年版の較正曲線である IntCal04の南半球版 SHCal04を選択することができる。対象として扱う Casma 河谷は T. Pozorski と S. Pozorski によって長年調査され、炭素14年代のデータが数多く出されている。だが、較正年代が出ているのはその一部であり、著者が OxCal を使ってすべて較正を行った。</p> <p>カスマ河谷は形成期で見られる U 字形、線形、方形室複合ユニット、円形半地下式広場、方形半地下式広場、通風孔のある炉の構造物のすべてを見ることができる。神殿の較正年代からこれらの祭祀建築を中心としたコンテキストの較正年代を一覧にし、これをもとに地域編年を作成した。I 期はカスマ河谷に初めて祭祀建築が現れる時期から構造物と広場のセットなる時期である。II 期から III 期にかけてそれが線形に変化し、この時期は通風孔を持つ炉の構造物も部屋の形状が方形または長方形から円形へと変化する。III 期と IV 期は、祭祀建築はなくなり、主要マウンドや広場は埋められ、前の時期の建築材を使った小さな部屋を造るといった建築活動になる。V 期になると、居住サイトと言われる Pampa Rosario やしばらくして San Diego が現れる。そして、最後に城砦サイトである Chankillo が出た時期を VI 期とした。年代で示すと、I 期が前 2600 年－前 1900 年、II 期が前 1900 年－前 1500 年、III 期が前 1500 年－前 1100 年、IV 期が前 1100－前 900 年、V 期が前 900 年－前 600 年、VI 期が前 600 年－紀元前後となる。</p> <p>前期ホライズンの準備段階として草創期をより細かく見るべきというのが筆者の結論である。祭祀建築が盛んな時期の前の時期は構造物と広場がセットになるという変化があり、セット関係が始まる前 1900 年が重要な画期として提案できるのである。</p>					